

# Information

## イベントカレンダー

### ■ 埼玉県内一斉ガンカモ調査【柳瀬川】

- ・日時：1月7日(日)9:00~11:00頃  
(雨天順延 1月8日)
- ・集合：9:00に志木大橋のたもと(下流の右岸側)
- ・備考：種類がわからなくても識別の秘技を伝授しますのでご心配なくとのこと。
- ・コース：志木大橋～柳瀬川・新河岸川合流点まで
- ・持ち物：双眼鏡、寒さ対策
- ・主催：(財)埼玉県生態系保護協会  
[柳瀬川担当:(財)埼玉県生態系保護協会志木支部・富士見支部]
- ・協力：NPO法人エコシティ志木
- ・お問い合わせ：048-473-4909(山崎)

### ■ 2006年度身近な川の一斉調査報告会

- ・日時：11月26日(日)10:00~16:00  
(午前：報告会、午後：シンポジウム)
- ・場所：朝霞市リサイクルプラザ3F
- ・内容：6月に実施した身近な川の一斉調査のデータからみた新河岸川流域の水環境の現状について報告します。
- ・主催：新河岸川水系水環境連絡会
- ・お問い合わせ：048-466-0916(藤井)

### ■ 柳瀬川・野鳥ウォッチング&水族館

- ・日時：11月19日(毎月第3日曜日)  
9:00~12:00(雨天中止)
- ・場所：志木中学校前の柳瀬川土手
- ・内容：【野鳥調査チーム】  
柳瀬川に沿って約4kmを散策しながら調査します  
【魚類調査チーム】  
魚類調査を行い「柳瀬川水族館」を展示します
- ・参加費：200円(保険代)  
家族参加は家族全員で1名扱い
- ・持ち物：【野鳥調査】  
双眼鏡、季節の対策、あれば野鳥図鑑  
【魚類調査】  
川に入れる格好、季節の対策、あれば魚類図鑑
- ・主催：NPO法人エコシティ志木、  
(財)埼玉県生態系保護協会 志木支部
- ・お問い合わせ：048-471-4275(毛利)

### ■ 新河岸川流域「アユの産卵」連絡協力をお願い

新河岸川流域にあるアユの産卵場周辺を、産卵期間禁猟(遊漁含む)にする提案を埼玉南部漁業協同組合に行うため、お近くの川でアユの産卵を確認された場合は、ご連絡の協力をお願いします。

#### 【連絡項目】

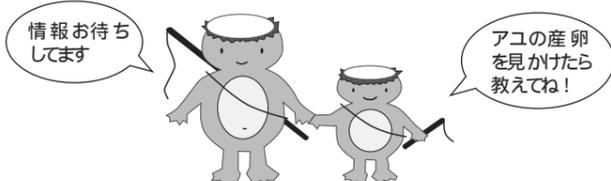
- ・日時(日にちだけでもかまいません)
- ・場所(河川名、場所)
- ・気温(できれば)
- ・水温(できれば)

#### 【参考情報】

- ・浅瀬の砂利でアユが暴れている所が産卵場です。
- ・下流部分で、コイやサギが待ち構えています。

#### 【連絡先】

新河岸川水系水環境連絡会 事務局  
TEL 048-466-0916(藤井)  
E-Mail shingashi@yahogroup.jp



## 事務局便り

### 川づくり連絡会に参加してみませんか?



川づくり連絡会の様子

原則第2火曜日に新河岸川流域川づくり連絡会を開催しています。参加希望の方は右記事務局までお問い合わせください。(開催場所はお問い合わせ時にお知らせします。)

### しんぶん「里川」掲載情報を大募集します!

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などをお手紙またはFAX・メールにて事務局までお寄せ下さい。

#### ■ 連絡先

〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1  
新河岸川流域川づくり連絡会 事務局  
(国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内)  
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346  
URL <http://www.ara.go.jp/arage/shingashi/>  
E-mail shingashi@ara.go.jp

# THE SHINGASHI BASIN NEWS

## 新河岸川流域しんぶん



発行●新河岸川流域川づくり連絡会(荒川下流河川事務所 調査課内)  
住所●東京都北区志茂5-41-1 TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346  
発行日 2006年(平成18年)11月13日



切り絵 毛利将範

11月に入り、だいぶ秋の気配が感じられるようになりました。  
さて、今号では新河岸川流域フォーラムの結果を特集しています。柳瀬川およびその周辺の緑地を観察するウォーキングや流域の宝物である緑地の保全を考えるパネルディスカッションなど、当日の様態を本紙にてご確認頂ければ幸いです。  
秋の訪れとともに、新河岸川流域でも紅葉が見ごろになる季節を迎えようとしています。身近な緑地で紅葉を楽しみながら、川や緑地を守るために一人一人ができること、皆で力をあわせてできることなどを考えてみてはいかがでしょうか。

## 目次

- P 2-5 新河岸川流域フォーラムの報告
- P 6 新河岸川流域の活動紹介
- P 7 行政からのお知らせ
- P 8 新河岸川流域情報

# 報告! 平成18年度 新河岸川流域フォーラム

## 流域のたからもの～緑地の保全について考えてみよう!

新河岸川リレーフェスティバルの集大成として新河岸川流域フォーラムが今年も開催されました。今年度は豊かな自然の残る清瀬市を会場に、柳瀬川および周辺の緑地を観察するウォーキングを実施。パネルディスカッションでは、清瀬市で取り組まれている事例や他地域の先進事例を参考に、今後どのように緑地を保全していくか考えました。



**1 【柳瀬川と調節池】**

このあたりは河川法の改正後、魚が住めて、水鳥が飛んできて羽を休めることができる川を目指し、柳瀬川ネットワークの皆さんと共に行政との話し合いを重ねてきました。現在、右岸側の崖線にはカワセミが繁殖しています。また、ここには面積約3haで貯水量46,000m<sup>3</sup>の調節池があります。これまでに何回か越流堤を越えて調節池に水が入りましたが、後の掃除や日頃の管理など、皆で作業をし、生態系豊かな調節池を守っています。

金山橋から調節池を望む参加者

**2 【憩いの場所! 金山緑地公園】**

約13,000m<sup>2</sup>の面積を有する金山緑地公園は、昭和61年に開園しました。休日には、多くの人々が訪れる憩いの場所として利用されています。この緑地公園は、武蔵野の原風景「雑木林」をイメージして植栽され、落ち着いた雰囲気緑陰を散策できます。公園内の水路では夏にホタルが舞い、これからの季節は、池にカイツブリやアメリカヒドリなどが飛来し、留鳥と共に多くの冬鳥が観察できます。

金山緑地公園で説明を聞く参加者

**3 【河畔林を守る】**

この河畔林にあるエノキは、柳瀬川流域ネットワークの活動により残されたものです。両岸ともに急勾配の護岸にして河積を確保し、土手をそのままにエノキを残すことができました。同じく、この河畔林にあるエノキの上にはヤドリギがあります。ヤドリギがあるということは、清瀬にもレンジャクが飛んできたということですね。

河畔林の豊かな自然の説明を聞く参加者

**4 【アカバツケ～所沢の崖線～】**

柳瀬川に沿うこの斜面は、現在では補強緑化されていますが、以前は地層が露出しており、地質学的にも貴重な場所でした。また、かつての河床は多くの転石が落差工の役割をし、豊かに続く河畔林と共に美しい溪流の趣がありました。

アカバツケ～所沢の崖線～

**\* プログラム \* \* \* \* \***

日時: 10月14日(土)  
場所: 中清戸地域市民センター(清瀬市)

内容: 12:00 受付  
12:30 開会・あいさつ  
12:35 プログラム説明  
12:45 ウォーキング  
15:15 休憩  
15:45 パネルディスカッション  
17:20 閉会

主催: 新河岸川流域総合治水協議会  
新河岸川流域川づくり連絡会  
(国土交通省荒川下流河川事務所/不老川流域川づくり市民の会/  
砂川堀流域川づくり懇談会/柳瀬川流域ネットワーク/  
黒目川流域川づくり懇談会/白子川流域の水環境を良くする会)

\* \* \* \* \*

**主催者あいさつ**

この新河岸川流域は昔から水害が発生している地域である一方、普段は地域の方々に潤いを与えてくれるような空間を持った河川であると思います。また、この流域にはそれぞれ支川ごとに活動を盛り上げてくれる方々がたくさんおられることが特徴です。その方たちの活動のおかげで、地域の中でも存在感のある河川、とりわけ地域の皆さんに親しみを持たれている河川であると思います。この流域では、リレーフェスティバルといまして、それぞれの支川ごとに川まつりが行われております。今年度は7月15日の落合川を皮切りに合計9河川で開催されました(富士見江川は雨天中止)。本日のフォーラムはそれらリレーフェスティバルの集大成という位置づけになっており、副題の「流域の宝物-緑地の保全について考えてみよう-」というタイトルのもと、空堀川、柳瀬川の流域である清瀬市を会場に、ウォーキングや、パネルディスカッションを予定しております。今日は皆さんと一緒に緑地の保全というテーマについて考えていきたいと思います。どうぞ一日宜しくお願いいたします。

国土交通省 荒川下流河川事務所 森久保課長

**5 【柳瀬川のワンド】**

ワンドとして整備されているこの付近には、せせらぎ公園の水が流れ落ちています。現在は暫定工事なので、数年後のワンドの姿も是非みてください。

柳瀬川のワンド

**6 【空堀川】**

せせらぎ公園となる以前の空堀川は、流域の開発と共に雨のたびに氾濫していましたが、このあたりはかつて雑木林の間を蛇行していた頃の河川跡を見ることができます。

旧空堀川

**7 【清瀬中里緑地保全地域の平地林】**

清瀬中里緑地保全地域約1.5haは、空堀川に沿う斜面林とそれに繋がる平地林で構成されていますが、その一部は、戦後しばらくサツマイモ畑であったものをクヌギ林とし、手入れも良く、良好な形で残されています。

清瀬中里緑地保全地域の平地林

**8 【清瀬せせらぎ公園】**

清瀬せせらぎ公園は、空堀川にかかる石田橋から柳瀬川を望むみはらし台場までの、およそ500mの細長い公園です。上流は子供たちが自由に遊ぶ親水ゾーン。下流は生態保存ゾーンとしてホタルの幼虫、カワナなどを育てています。せせらぎの流水は地下水を利用し、循環させています。

清瀬せせらぎ公園

**9 【林の再生】**

この林は、かつて春にはカタクリやイカリソウでピンク色になりました。その頃は農家の方が一生懸命手入れをしていたので、農地と同様に誰もが足を踏み入れられる場所ではなかったのですが、農家にとって林の役割を終えると、人の出入りが多くなり、地表が踏み固められると同時に林床植物も抜かれました。10年程前地主の許可を頂き、柵の設置と同時に雨水を浸透しやすくし、カタクリの種子を蒔くなどの保全と保護団体の管理作業により、近年はかつての植生が甦り、カタクリ祭りをするほどになりました。また、1500m<sup>2</sup>を平成12年、試験的に萌芽更新を実施。植生調査などをしながら経過を見守っています。

再生された林

**10 【清瀬の昔ばなし】**

清瀬四中の校庭の奥には、円福寺の三重の塔と薬師堂が見えます。このお薬師さんの庭には1本の松があり、こんな昔話が伝えられています。眼病に霊験あらたかな薬師堂に、昔、琵琶法師が見えない目を治すために一心にお祈りをしたところ、目が見えるようになりました。琵琶法師はうれしさのあまり、松にかけておいた琵琶を忘れて飛んで帰ってしまったとか。以来この松は、「琵琶掛けの松」と呼ばれています。清瀬の緑には、そんな古い言い伝えもあります。

昔話が伝わる清瀬の薬師寺

**11 【緑の基金設立のきっかけ】**

中里一丁目緑地は10年ほど前に物納された林です。かつては小金井街道まで続く林でしたが、アパートの建設などでだんだん林が失われてしまいました。なんとか市で買い取ることができないかということで、市長に直接この林をみてもらったところ、市長は生態系が豊かなこの林をなくすわけにはいかないと決断し、市で買い取れることを約束してくれました。その資金のために、清瀬市緑地保全基金が設立されました。市民団体は自分たちでも資金を集めるために、清瀬の駅前に立ち募金活動を実施しました。募金の結果は、決して満足する額ではなかったものの、活動を通じて市民の人たちに清瀬の緑の大切さを印象付けることができたと思います。今でも、市民まつりなどの場で、緑の箱を首にかけて活動を続けています。また、清瀬の竹を用いた竹炭や落ち葉の腐葉土を作って販売をし、基金にあてられます。この林床には、キンラン・ギンラン・チゴユリなどが見られます。

緑の募金で守られた中里一丁目緑地

# パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、パネラーそれぞれの立場から、緑地保全事例や現在までの活動を紹介していただいた後、新河岸川流域における平地林の保全について、その問題・課題や今後の活動等に関するディスカッションを行いました。会場は約50名の参加者でほぼ満席となりました。参加者の皆さんは約1時間30分におよぶパネラーからの話を興味深く聞いていました。



恵 小百合 先生  
東洋大学卒業、東京大学大学院工学系研究科博士課程を経て、1992年より江戸川大学で教鞭を執る。現在、同大学社会学部ライフデザイン学科教授。専門は都市アメニティ論。現在は大学教授の傍ら、NPO法人荒川流域ネットワーク代表、社団法人日本ナショナルトラスト協会評議員、NPO法人全国源流ネットワーク副代表理事、NPO法人NPO支援センターちば代表理事、NPO法人自然環境復元協会理事として活躍中。

恵先生からは、流域の総合治水において欠かすことのできない緑の保全や創出について、さまざまな角度から具体的な解決策の紹介がありました。

## 流山グリーンチェーン戦略

ヒートアイランド現象の抑制や温室効果ガスの排出抑制の効果が期待できる「グリーンチェーン戦略」についてご紹介します。「グリーンチェーン認定」に適合した事業には、流山市から認定マークが交付され、その事業を実施する開発業者は住民や消費者にアピールすることで販売力向上に寄与します。また、認定マークが付いた商品を買う消費者は、銀行から低金利で資金を借り入れできるサービスが受けられるなど、「グリーンチェーン戦略」を具体化しやすい仕組みも備えています。

## 緑との付き合い方

東京オリンピック(1964年)以降、木材を使わない街づくりになってしまいま

したが、木を使う文化が身近にあり、手入れをするのが当たり前になれば緑は復活するのではないのでしょうか。木へのニーズと市場(マーケット)をつくるために、様々なものを木質化することで木の循環が生まれ、緑の保全が期待できます。

## 都市緑地法について

エリアを決めて屋上緑化等を行うと、緑化経費控除等の支援が受けられる制度です。また、土地所有者に代わり、緑地管理機構として認定NPO法人等が緑地を良好に管理した場合、市を含む三者が協定を締結することで、相続が発生した際にその緑地を管理者に寄付すると相続税が一部免除されるなど、緑の保全や創出をしやすい環境が整備されつつあります。



宮澤 とよ美 さん  
川づくり・清瀬の会会員。清瀬の自然を守る会幹事。さらに東京都環境学習リーダーとして小中学校の環境学習に携わる。地球規模での環境悪化に対し、自然保護団体と自治会からなる清瀬ダイオキシン対策等市民協議会の会員として、環境保全のために活躍中。

宮澤さんからは、市民の立場から現在の活動とその課題、さらに緑地の保全・創出に対する市民の役割についての紹介がありました。

## 活動のきっかけと活動概況

昭和30年頃の清瀬は、深い雑木林がたくさんありその先には農家が広がっていて、落ち葉を非常に大事にしていました。そのような清瀬の姿を残したいと思い、市民活動を行っています。子供たちが川に入っても安全で生態系の豊かな川にするための川づくりに関する活動や、雑木林の保存と緑の創生のために、行政への提言や、イベントごとに市民に対し環境保全の重要性をPRしています。

## 活動の課題

緑の基本計画を現実のものとする努力や、河川改修の機会を捉え、環境・景観とも

に生かすことのできるような提案など、市民参加の審議会制度や委員会制度が実効性のあるものであって欲しい。また、皆が環境保全・浄化のために緑の重要性を認識し環境に配慮した生活ができるよう、環境保護団体としての確かな情報を市民に発信していなくてはと思います。

## 市民の役割

落ち葉や生ゴミの堆肥など、身の周りのできる活動を実施することが重要だと思います。現在、私たちの団体では、市内の歴史ある名木や巨木を残すために、清瀬の市報を通じて名木の紹介をし、マップの作成を計画しています。



宮本善和さん  
柳瀬川流域ネットワーク世話人。工学博士、技術士を取得。コンサルタントとして従事する傍ら、NPO法人全国水環境交流会理事、柳瀬川流域水循環マスタープラン検討委員、土木学会地球環境委員会特任幹事として活躍中。

パネルディスカッションのコーディネーター・宮本さんよりお話がありました。議論の主旨と総括について紹介します。

## 議論の主旨

緑地は雨水を浸透させ、川に戻す役割を担っています。健全な水循環や川を保全するためにも、緑地の保全は重要なことです。また、緑地自身が色々な宝物としての価値を持っており、その宝物をどう保全していくかということも含めて「緑地の保全」の議論を進めていきたいと思っています。

## 総括

情報を共有し、緑地を見守り、それを育むことを皆で行うなど、市民

が緑地保全に対して出来ることは沢山あります。また、「グリーンチェーン戦略」のように、緑地の保全・再生にお金の流れを作っていくことも必要であり、市民や企業を含めた体制の構築が可能なことも確認できました。

行政としては、今後は緑をまちづくりの中で位置付けていくことが、まず重要であるとの認識がありました。緑地が売却されようとする場合、その確保のためには「清瀬みどり債」や、「トラスト基金」のように、市民や企業が手を差し伸べられることも学びました。今後、流域各地の緑を守り、全体でつなげ、里川にきれいな水を育むことを期待したいと思います。



大石 章 さん  
埼玉大学大学院政策科学研究科卒業。現在は埼玉県職員の自然観察指導員であるとともに、財団法人さいたま緑のトラスト協会のボランティアスタッフとして、2004年より飯能河原周辺河川緑地の保全管理を担当。また、小学校の環境学習のご指導も行うなど幅広く活躍中。

大石さんからは、財団法人さいたま緑のトラスト協会(以下、トラスト協会)ボランティアスタッフとして緑のトラスト運動や市民との関わり方についての紹介がありました。

## 活動概況

トラスト協会の会員は現在2,034人おり、ボランティアスタッフは約100人です。私はトラスト協会で管理する緑地のうち、4号地の飯能河原河川緑地を15人のボランティアスタッフとともに管理しています。管理の具体的な内容は、落ち葉溜をつくったり、間伐作業をしたり、夏休みに子供たちとゴミ拾いをしたりしています。ゴミが非常に多く、ゴミ処理だけで管理活動が終わってしまい、楽しい活動にならないのが悩みです。

## 緑のトラスト運動

埼玉県では、過去30年で約6,200haの平地林が減ってきている背景を受け、貴重な緑を買い取りによって

保全するトラスト基金が生まれました。昭和60年から21年間で、県民からの寄付と県からの積み立てでトラスト基金は約51億円が積み上げられ、これまでに1号地から7号地までの合計面積で約34haの緑地を購入しました。原則、2/3を県、1/3を地元の自治体が負担することで購入して、現在、北本市で8号地の取得を進めています。

## 市民の関わり方

今年の夏、4号地では、子供向けに自由研究支援のための観察会を行いました。今後はさらに市民を巻き込んだ活動を進め、将来的には飯能市が進めるエコツアーと連携し、エコツアーができればと思います。



中澤 弘行 さん  
昭和51年より清瀬市役所勤務。職員課、財政課長補佐、都市計画課長、建設部参事を歴任後、平成17年8月より、企画部財政担当部長兼財政課長。都市計画課では都市計画マスタープランや住環境の整備に関わる条例の制定、第1種住居専用地域における最低敷地規模の導入などに携わる。

中澤さんからは、清瀬市の立場からこれからの清瀬市のまちづくりの姿と具体的な取り組み方法について紹介がありました。

## 清瀬のまちづくり

清瀬市では、良好な自然環境の中で住みやすいまちづくりを目指しています。特に、子どもたちが自然に触れて楽しい体験を残しながら大人になってもらいたいことから、環境保全に力を入れていきたいと考えています。

## 具体的な取り組み

現在整備中ではありませんが、「柳瀬川回廊計画」の実施により、今ある自然を残していくことを目指しています。その手法として「清瀬みどり債」を活用していきたいと考えています。

## 「清瀬みどり債」

「清瀬みどり債」は市民の方から提案をいただいた、緑地を守る手法です。国債とほぼ同じ利率で、年に2回利子を支払い15年後に元本をお返しする仕組みで、1億円の募集に対して8億円を集めることができました。市民の皆さんの環境に対する関心の高さには、大変ありがたかったです。しかしながら、「清瀬みどり債」は借金です。将来の子供たちへの負担にならないように考えていかなければならないと感じています。

# パネル展示

6団体からのパネルと1団体から柳瀬川の天然アユが展示されました。



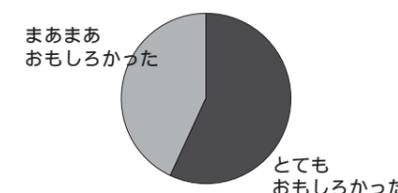
団体名	展示内容
黒目川流域川づくり懇談会	水槽に入れた柳瀬川のアユを紹介
川づくり・清瀬の会	川の学習、川の掃除などをはじめとした会の活動報告を紹介
柳瀬川流域ネットワーク	柳瀬川流域市民から柳瀬川にふさわしい川づくりの提案を紹介
不老川流域川づくり市民の会	砂久保橋の大工ノキを守る為に埼玉県越前土木事務所に提出した提案書の概要を紹介
狭山丘陵の谷戸を守る会	最終処分場としての開発が懸念される狭山丘陵の湿地(谷戸)の危機を紹介
トトロのふるさと財団	谷戸を埋め立てしてしまう様子などを写真パネルで紹介
新河岸川流域川づくり連絡会	新河岸川流域川づくり連絡会の活動報告を紹介

# アンケート

アンケートは30名の方に回答をいただきました。ここではウォーキングとパネルディスカッションの内容についての集計結果と感想をご報告します。

## ウォーキングの内容について

ウォーキングの内容については「とてもおもしろかった」が60%、「まあまあおもしろかった」が40%、「あまりおもしろくなかった」、「おもしろくなかった」は0%と好評でした。



## ウォーキングの感想 まとめ

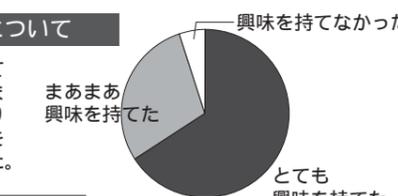
- 良かった点
- 初めて来たけれども、都内でこんなにすばらしい緑と川があるとは思わなかった。
  - 何度も訪れたことのあるところでも、新しい発見があった。
  - 清瀬は住宅地に程よく緑の多い街だと感じた。また、熱心なグループがあることもわかった。
  - 自然のままになっているというより、手入れが行き届いた作られた緑地だと思った。
  - 説明がわかりやすく、大変勉強になった。
  - 市と市民の努力を感じた
  - 地域を守るということは、自らがすることを自覚するのが大切だと感じた。
  - 市民活動によって林を保全している活動に感心した。
  - 緑地保全の舞台裏の話が聞いてよかった。

## 改善点

- スローペースだったので、少々物足りなさを感じた
- もう少し回りに配慮して歩かないと危ない。
- ついていくのが精一杯で、十分に説明も聞けなかった。
- 各ポイントで少し休憩が欲しかった。
- もう少し説明が欲しかった

## パネルディスカッションの内容について

パネルディスカッションの内容については「とても興味を持てた」が66%、「まあまあ興味を持てた」が29%、「あまり興味を持てなかった」、「興味を持てなかった」は4%という意見でした。



## パネルディスカッションの感想 まとめ

- 良かった点
- それぞれの立場で話を聞いて、様々な手法について興味深く聞いた。
  - さいたま緑のトラスト運動、清瀬みどり債、グリーンチェーン戦略、木材の積極的な利用、緑とみずのかかわりの深さについて興味があった。
  - 緑の保全の必要性を知り、やれることがあることもわかった。
  - 実例の発表に可能性を感じた。
  - 現在の保全の流れがどのように進んでいるのかわかった。

## 改善点

- ちょっと難しかった。
- 時間が少なかった。
- 質問の時間がなく残念。
- 行政側の対策についてもっと知りたかった。

アンケートにご協力いただき有難うございました。

# REPORT

## 「身近な川を調べる - 水環境健全性指標調査研修会 - 」

10月7日(土)に日本水環境学会関東支部主催の「身近な川を調べる - 水環境健全性指標調査研修会 - 」が開催されました。水環境健全性指標は、水環境の状態を幅広い観点から捉え評価するとともに、水環境保全活動の成果を測るものさしとなることを目指し、作成されたものです。研修会では、柳瀬川と新河岸川の合流点にて、現地調査が水環境健全性指標試行調査マニュアルに沿って行われました。調査結果は、前日までの大雨の影響により、本来の柳瀬川・新河岸川の状態を示したものではありませんでしたが、案内役を務められたNPO法人エコシティ志木の天田



氏による調査地域や野火止用水の歴史の説明もあり、大変充実した調査となりました。その後、午後からは志木市民会館パルシティにて意見交

換会が行われ、指標の運用における留意点や今後の改善点について総勢19名の参加者の間で議論が行われました。今後、使いやすい指標として、幅広い人に使われるようになることを期待します。



### 水環境健全性指標試行調査 - 調査マニュアル -

- ◇ 水環境を水質だけでなく、5つの評価軸で評価します。
  - 【評価軸1】「自然なすがた」: どれくらい自然な状況維持しているか
  - 【評価軸2】「ゆたかな生物」: 生物にとって住みやすいのか
  - 【評価軸3】「水の利用可能性」: この水はきれいか、どんな利用が可能か
  - 【評価軸4】「快適な水辺」: 水辺を心地よいと感じられるか
  - 【評価軸5】「地域とのつながり」: わたしたちの暮らしと水辺の関係は
- ◇ 上記の5つの評価軸に該当する個別指標をそれぞれ5点満点で評価し、レーダーチャート図等で対象地点や流域の水環境の特性を評価します。

## \* 第6回 白子川源流まつり \* \* \* \* \*

日時: 10月22日(日)  
 場所: 大泉井頭公園(練馬区)  
 内容: 12:00 受付  
 12:30 主催者挨拶  
 12:40 メダカの特性・飼育方法の解説  
 13:00 ペットボトルを使った魚のわな体験  
 13:15 後援者挨拶  
 13:20 会の活動年間報告  
 13:35 小金井市における雨水浸透事業の紹介  
 13:55 白子川調べ学習発表会  
 14:00 ペットボトルいかだ  
 14:45 会のスローガン発表  
 14:50 コンサート「ゴーバックサタディス」  
 15:15 メダカの放流  
 15:30 閉会  
 主催: 白子川源流まつり実行委員会  
 後援: 練馬区環境保全課、教育委員会

### 【白子川源流のスローガン】

白子川源流の豊かな湧き水を取り戻しましょう。  
 ・屋根の雨を庭にしみこませる「雨水浸透枡」を付けましょう。  
 ・「道路枡」のゴミを掃除しましょう。  
 ・4月10日を「浸透の日」にしましょう。  
 ・雨水浸透性の道路、駐車場を増やしましょう。  
 ・緑を守り、増やしましょう。  
 ・練馬の農家を応援しましょう。  
 白子川源流を、生き物でいっぱいにしましょう。  
 ・ゴミを入れないようにしましょう。  
 ・上流の清掃にご協力ください。  
 ・オオフサモ(外来種水草)の間引きにご協力ください。  
 ・川の生きものに優しい川にしていきましょう。  
 ・下水道に捨てられる雨水を川に呼びましょう。



(上)まつりも終わりに近づいて、皆でメダカを白子川に放流しました。「大きくなって、子どもをいっぱい生んで戻ってきてね」

(右)大泉南小学校4年生の皆さんの発表。白子川について調べたことをグループ別に元気よく発表を頑張っていました。



スローガンを唱える白子川源流・水辺の会副代表本多さん

10月22日(日)の午後、「白子川源流まつり」が大泉井頭公園にて行われました。今回で6回目となる白子川源流まつりは晴天に恵まれ、子どもから大人まで多くの方が盛りだくさんのプログラムを楽しんでいました。また、会場には雨水浸透施設を紹介するコーナー、水質検査体験コーナー、やきマシュマロをつくろうコーナー、東京理科大学による研究紹介コーナー、ボーイスカウト練馬第17団のゲームコーナーなど、さまざまなコーナーも設置され、参加者の皆は勉強したり遊んだり大忙しの日でした。まつりの終盤では、皆で白子川源流のスローガンを確認しました。会場の皆さんは拍手にてこのスローガンを承認しました。

## 国土交通省からのお知らせ

### 荒川知水資料館(amoa)からのお知らせ

荒川知水資料館(amoa)では荒川に触れることができる機会として年間を通じて様々な催事を開催しています。

#### ◆ 秋の野外料理体験教室 ~ 荒川で旬を味わおう ~

今年もアモアでは人気のアウトドア料理の講習会を行います。秋の荒川で行楽の秋と食欲の秋の楽しみが一度に体験できますよ!

- ・日時: 11月19日(日) 10:00~15:00
- ・場所: 荒川知水資料館(amoa)
- ・講師: 江原 哲夫氏、長坂 養一氏 (ボーイスカウト北地区協議会)
- ・対象: 一般(小学生以上・小学生は保護者同伴)
- ・内容: 荒川の河川敷で料理を作って、秋の味覚を味わいます。火おこしやかまどづくりにも挑戦します。
- ・募集人数: 50名(先着順)
- ・持ち物: 飲料水、エプロン、軍手、タオル
- ・費用: 500円(材料費)
- ・申込み: はがき・電話・メール・直接資料館受付のいずれかで、ワークショップ名と参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号をご連絡ください。



【受付開始】10月29日(日)

#### ◆ アモアワークショップ 第13回「発見・荒川流域! なんでもウォーク」

東京都小金井市に源を発し、東京都北部を横断した後、隅田川に合流する石神井川。その流域はたびたび洪水被害に見舞われる一方、緑地や公園が点在するなど都市部の貴重なオアシスとなっています。このワークショップでは2つの顔を持つ石神井川流域を講師の説明を聞きながら探索します。石神井川の流域が育んだ歴史や文化に触れてみませんか?

- ・日時: 11月25日(土) 9:20(集合) 9:30~15:30
- ・集合場所: JR王子駅 北口 駅前広場
- ・内容: 石神井川沿川を中心に講師の解説を聞きながら歩きます。(散策ルート約5km)
- ・募集人数: 30名(先着順)
- ・持ち物: 昼食(お弁当)、飲み物、雨具、筆記用具
- 動きやすい服装でお越し下さい。川沿いは都心部より冷え込みますので、防寒対策もお願いします。
- ・費用: 300円(保険代、資料代)
- ・対象: 成人の方
- ・申込み: 電話・直接資料館受付のいずれかで、ワークショップ名と参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号をご連絡ください。

【受付開始】11月10日(金)

### 問合せ先

〒115-004 2  
 東京都北区志茂5-41-1  
 荒川知水資料館 ワークショップ事務局  
 【TEL】03-3598-2134  
 【メール】amoa-ws@arago.jp  
 【受付時間】10:00~16:00(月曜休館)  
 (月曜が祝日の場合は火曜休館)